

# まち活通信

まちづくり  
活動を  
お知らせする  
広報紙

2023  
令和5年  
3月号  
Vol.1

鶴岡市には、町内会や自治会など463の単位自治組織と、33の広域コミュニティ組織（コミュニティ振興会、自治振興会等）があり、地域のまちづくりの活動主体として取り組んでいます。

近年、多くの地域コミュニティでは、役員の高齢化や固定化、価値観の多様化や帰属意識の低下など社会状況の変化に伴い、活動の担い手不足が一層深刻さを増す傾向にあります。一方、地域の将来

像や活動計画を描いた「地域ビジョン」づくりを通して、住民同士が地域の将来のことを話し合い、地域の特性や事情を踏まえた住民主体による地域づくりで成果をあげている地域も現れています。

この「まち活通信」では、地域のコミュニティ活動の工夫や独自の取り組みなどを紹介します。皆様の地域のコミュニティ活動のヒントになれば幸いです。

## 鶴岡地域 単位自治組織

### 皆が集まる機会をコロナ禍でも大切にしたい

前 みどり町町内会長 瀬尾 忠衛



昭和43年の町内会発足から55年を迎えようとしています。今年度、町のスローガンは「3.すべての人に健康と福祉」「11.住み続けられるまちづくりを」で、SDGsの達成に向けた取り組みを進めています。

#### コロナ禍の町内会活動

この3年間、コロナ禍ではありますが、皆が集まれる機会を

作りたいと工夫して交流事業を行っています。町民運動会の代替として開催したウォーキング大会は、チェックポイント5箇所でクイズに挑戦しながら、好きなコースを歩いてゴールに向かうもの。イベント当日、庭の手入れをしていた住民とウォーキング中の参加者が声を掛け合うなど予想外の交流もあって、爽やかな汗と笑いを共有できる

楽しい大会でした。

他にも、新しい試みとして緑日風情の秋祭を実施しました。この事業は、子ども会の保護者

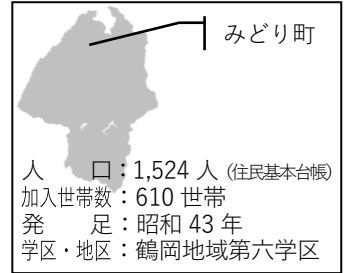


老若男女が参加したウォーキング大会。参加賞はみどり色のSDGs風ビンバッジでした。

等と共に開催準備を行ったので、若い町民のパワーを実感した機会にもなりました。当日は、大勢の子供たちや家族の来場があって、自由に遊べて賑やかな祭事となりました。

#### 避難所運営は皆で役割分担

災害に備えた取り組みでは、第六学区コミュニティネットワークと共催で、みどり町の指定避難所の第六学区コミセンを会場に避難所開設訓練を行いました。風邪等で体調が悪い方や障害がある方、赤ちゃんがいる家族など多様な避難者の避難場所の区別や、トイレ・駐車場の確保等々を役員だけでなく、元気な人は皆協力して役割分担しなければならぬことを学びました。今はまだ十分に備えができていなくても、訓練で習得していくものです。また、町内会と



みどり町  
人口：1,524人（住民基本台帳）  
加入世帯数：610世帯  
発足：昭和43年  
学区・地区：鶴岡地域第六学区

して備えた方が良い物品を考えるきっかけにもなると思っています。

#### ありがとうの心のお返しを

公園の除草やごみ拾い、高齢者宅の除雪や食事の提供、下校児童の見守り等々、さりげない、たくさんの方のボランティア活動に感謝ばかりです。町内での助け合い、支え合いが当たり前になり、ありがとうの心のお返しが素直にできることがまちづくりの原点だと思いますので、町内で出会う方々が皆笑顔で挨拶を交わせる素敵な町を目指しています。

## 温海地域 単位自治組織

### みんなでつなぐ宮名の未来～宮名地域活性化ビジョン策定～

前 宮名自治会長 今野 久良



#### 宮名が限界集落になる！？

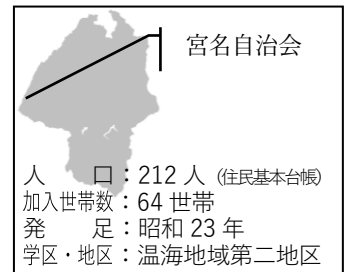
宮名はこの8年間で約50人減りました。令和元年度、地域づくりモデル地区に手をあげ、藤山浩先生による「人口分析・予測シミュレーション事業」に参加し、このまま何もしなければ32年後の将来人口はたった70人、高

齢化率は62%の限界集落になるという大変ショッキングなデータを目の当たりにしました。

#### ビジョン策定への道のり

まずは、この現状を集落で共通認識し、将来も続く自治会にしなければと思い、令和2年9月「宮名未来づくり委員会」を

立ち上げ、温海庁舎やスケダチ※の支援をいただきながらビジョン策定に取り組むこととしました。委員は、自治会役員のほか、各種組織の代表者を選定し、年齢・性別もバラバラとなるように配慮しました。ワークショップでは、活発な話し合いが行われ、皆さんの想いを多く聞くことができました。土地柄、道路や鉄道関係の困りごとが多く出されましたが、身近にある夕日や海・山の幸を魅力と思う住民が多く、共感できました。また、



宮名自治会  
人口：212人（住民基本台帳）  
加入世帯数：64世帯  
発足：昭和23年  
学区・地区：温海地域第二地区

獅子舞の伝統や昔話にも花が咲き、子どもたちに伝統をつないでいってほしいと、急ぎよ中高生にアンケートを取りました。宮名を好きでいてくれる子どもが多く、大変嬉しく思いました。ビジョンをより身近に感じて

※地域づくり活動をサポートする中間支援団体。

ほしく、「遊ぼう 暮らそう 関わろう みんなでつなぐ宮名の未来」をスローガンに設定しました。

ビジョンづくりを通して、宮名の魅力や課題を出し合い、取り組みのアイデアを話し合えたことは、今後の自治会運営を行っていくうえで大変重要な意味のあるものでした。

## 朝日地域

地域コミュニティ組織

# 若者によるゆるやかな繋がりのある地域づくり

朝日中央地区自治振興会 事務局長 菅原 和則

「これからは若者と女性が鍵だぜの～、何するや～」理事との雑談から企画が生まれました。

## 「チームWaGeSho」始動

かねてからご縁があった東北公益文科大学（以下、公益大）大学院教授の武田真理子先生にご協力をお願いし、事務局会議を重ねました。そして、若者が集い、ありのまま語り合うことでゆるやかな繋がりのある地域づくりをしていこうと、令和3年度から本格的に「チームWaGeSho（わけしょ）」のプロジェクトを立ち上げるようになりました。

## 世代間交流で活性化

ビジョン完成後、令和4年度事業に2つ組み入れました。7月には「イ貝汁を食する会」を実施し、地元でとれた旬の食材を漁港付近で堪能しました。正月前には、昔ながらの風習・伝統を子どもたちに伝えたいと「ナン団子づくり」を行いました。

山から採ってきたミズキの枝に紅白の餅を飾り付けしました。役員や関係団体の協力のもと、素晴らしい事業となり、



左)漁港付近でイ貝汁を食しました。右)餅つきを行い、ナン団子を飾り付けました。

子どもたちにはこれらの体験を心に刻んでほしいと願っています。住んでいる人が自慢でき、子ども

もや孫たちが帰ってこれる「温かい集落 宮名」となるよう取り組んでいきたいと思ひます。



## 楽しいことをやってみる！

集まったメンバーで企画の目的や朝日の良さを共有し、やってみたいことの話し合いを繰り返しました。「強制しない」「楽しいことをやってみる」まずはそれだけ。楽観的かもしれませんが、楽しいことをしていれば



ジビエ BBQ。地元若者でも食べたことのない、クマ肉、イノシシ肉に恐る恐る挑戦しました。朝日地域共創プロジェクト <https://jomonex.jp/asahi>

自然と人が集まってくるのではないかと日頃から考えています。

そんな中、公益大とIT企業の株式会社プロトソリューション、当自治振興会のコラボ企画「朝日地域共創プロジェクト」として、朝日地域の情報を発信する特設サイトの提案をいただきました。立ち上げにはメンバーも参加し、令和4年秋から運用しています。当サイトでは、リアルタイムでの情報発信ができる「つぶやき」を利用して、地域の出来事や様子を写真とともに発信しています。

また、公益大大学院の授業のフィールドに朝日地域を選定していただき、大学生との交流も実現しました。

今冬には、関東在住メンバーの提案で、暗

朝日中央地区：  
大針・本郷・名川・熊出・東岩本の5地区、23集落

人口：2,944人（住民基本台帳）  
加入世帯数：846世帯  
発足：平成26年  
学区・地区：朝日中央地区

くて寂しい朝日の夜道を明るくしようと、帰省した方や通勤通学の方に向けたほっこりメッセージ「おかえり～☆」のイルミネーションの制作にも取り組みました。

## 未来を託す人材の育成

今はまだ事務局が仕掛けている感が否めませんが、「チームWaGeSho」として自発的な活動が行えるように引き続き見守り育てていき、朝日の明るい未来を彼らに託せるようになることを願っています。

鶴岡市住民自治組織合同研修会「つるおかみらいフォーラム」を開催しました

期日：令和4年11月19日 開催方法：ハイブリット型講演会（会場＋オンライン）

本研修は、持続可能な地域コミュニティを目指すことを目的

とし、「これからの時代に不可欠な住民自治のカタチ～地域での暮らしを持続可能なものにするには住民自治の進化が不可欠～」をテーマに、新潟県



なにごともしてみるを大切に！

やってみる  
試してみる  
ダメならやり直してみる

（講師資料・一部抜粋）

村上市の都岐沙羅パートナーズセンター理事・事務局長の齋藤主税氏からご講演いただきました。齋藤氏からは、「暮らしや地域を支える世代と支えられる世代の人口構成が変化しており、祭りや伝統芸能、除雪など個人や自治会で賄っていた活動が困難

になっていくため、住民自治の進化・再構築が必要である。行事や会議、組織の棚卸を『掛け算』で考えると組み合わせから『ついでにやる・まとめてやる』といった新しい価値が生まれる」など、これからの住民自治に必要な視点をお話いただきました。

また、講演後には参加者同士車座トークを行い、日頃の活動の情報交換や悩みを共有しました。

また、講演後には参加者同士車座トークを行い、日頃の活動の情報交換や悩みを共有しました。

編集・発行／鶴岡市市民部コミュニティ推進課

〒997-8601 鶴岡市馬場町9-25  
TEL：0235-35-1203  
E-Mail：community@city.tsuruoka.yamagata.jp

藤島庁舎総務企画課 TEL 0235-64-5812  
羽黒庁舎総務企画課 TEL 0235-26-8772  
櫛引庁舎総務企画課 TEL 0235-57-2111  
朝日庁舎総務企画課 TEL 0235-53-2113  
温海庁舎総務企画課 TEL 0235-43-4611



まち活掲示板 HP